

【優秀賞】

海を守るために

仙台市立郡山中学校

三年 佐々木 奏夏

「母なる海」という言葉があります。私たち人類を含むあらゆる生物は、祖先が海で誕生し進化してきたと考えられています。そして食用の魚介類や海藻など、私たちは様々な形で「海の恵み」を受けて生きています。地球に海があったからこそ、水があったからこそ、私たちも生まれることができたのかもしれない。

私は以前、家族と海へ行きました。その砂浜にはたくさんゴミが落ちていました。それだけではなく、海にもいくつものゴミが浮かんでいました。私は、なんでこんなにもゴミが落ちているのだろうか、このゴミはどこからくるのだろうか、と思いました。そのゴミのほとんどはプラスチックでした。私はこのゴミがどこからくるのか調べてみました。するとその大半は私たちが暮らす街からであることが分かりました。街で捨てられたゴミが水路や川に流れ出し、やがて海へと流れ着くというのです。私は、そこら辺に落ちているゴミが海の水を汚していると知って驚きました。

また、何年前かに神奈川県海岸に体長十メートルあまりのシロナガスクジラの赤ちゃんが打ち上げられたというニュースがありました。その赤ちゃんはまだお母さんの乳を飲んで育つ時期なのに胃の中からプラスチックゴミが見つかったというのです。海の水を汚すということは海にすんでいる生き物の命を奪うことにもつながります。

地球の面積の七割は海です。海は私たち人類を含むすべての生命の「ふるさと」です。人間と海の水には大きな関わりがあります。大きな関わりがあるからこそ海の環境を救えるのもまた、私たち人間です。このまま海のゴミが増えていくと二〇五〇年には海のプラスチックゴミが世界の魚の

総重量を超えてしまうのではないかと予測されています。そうなると海の水がますます汚くなり、魚が海から姿を消すかもしれません。あるいは、プラスチックを食べた魚を人間が食べ、人間の命が危険な状態におちいるかもしれません。

そうならないために私たちに何ができるのでしょいか。海を守るために私たちにできることはたくさんあります。例えば、油を下水道へ流さないこと。日本は下水道が整備されているので何も考えたことがありませんでしたが、油を多量に下水道へ流すと冷えて固まって処理に影響を及ぼすそうです。それが海に流れこんでしまうと海の水はどんどん汚れてきます。私はこれから残った油はこして再利用したり新聞紙などに吸わせて可燃ごみとして捨てるなど、油を下水道へ流さない工夫をしていきたいです。また、洗濯やお風呂では洗剤やシャンプーを使いすぎないことも海を守ることにつながるといいます。普段髪を洗うときに出すシャンプーの量、みなさんは意識していますか。私は意識したことがなかったのでこれを聞いたとき、とても驚きました。

その他に、プラスチックゴミを減らす取り組みとして私がしていることがあります。マイエコバックを使うということです。最近使っている人もよく見かけますが、全ての人間がマイバックを使ったらどれだけのプラスチックが減るでしょうか。

このように私たちにできることはたくさんあります。それは決して難しいものではありません。海の水を守るということは私たち人類を守るということなのです。近い将来、魚が食べられなくなるといふように、海の環境を人間が壊してしまわないように今すぐ普段の行動をみなおして実行してみましよう。

その一人一人の小さな行動が地球の未来を救うのです。